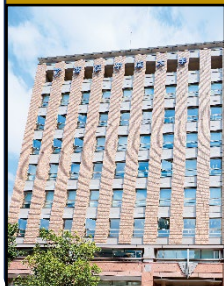


認識論的信頼を基盤とした対人援助職養成教育の効果研究



【池袋キャンパス】臨床心理センター 准教授

久野 晶子 Kuno Akiko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：メンタライゼーション・対人援助職・養成教育



研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

対人援助職において、援助を有効に機能させるための基盤は、対象者との間に「認識論的信頼(この人からの情報は信頼に値するという感覚)」を築くことである。この信頼の鍵を握るのが、「メンタライゼーション能力(自分や他者の行動の背後にある「心理状態」(意図、感情、欲求、信じていること)を想像し、理解する能力)」である。この能力は、従来、個人の資質に委ねられる傾向にあったが、近年の研究では環境や関わりによって変化・向上することが明らかになっている。私はこれまで心理専門職養成の現場において、この能力を育む視点を取り入れた教育指導の実践と検討をおこなってきた。現在は、この教育的アプローチの有効性をより客観的に検証するため、複数の心理専門職養成機関と連携した研究プロジェクトを計画している。

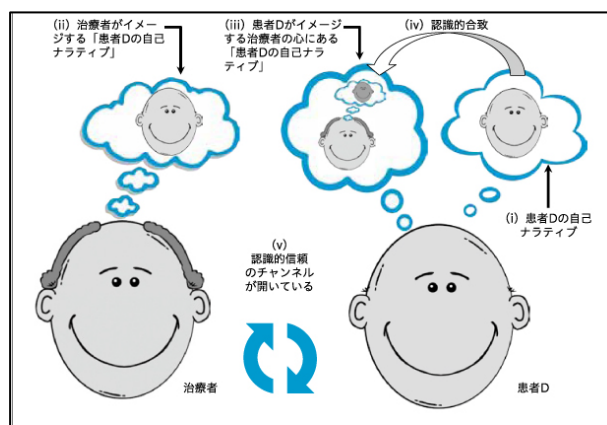


図2 認識の合致

(Fonagy, P.: On mentalizing in a social and cultural context with a focus on adversity (日本MBTトレーニング実行委員会主催ワンデイセミナー配布資料、2023)より改変)

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究は、対人援助の現場で最も困難とされる「対象者との信頼関係の構築」を、個人のセンスではなく、学習可能な「メンタライゼーション能力」の視点から捉え直すものである。この研究が進展することで、心理・看護・教育・福祉などの各養成課程において、より実践的で根拠に基づいた教育プログラムの構築に寄与することを目指している。専門職が対象者のこころを適切に理解しようとする姿勢を持つことは、対象者の「認識論的信頼」を開き、結果として質の高い対人援助の実現へと繋がる。

【協力希望事項】

調査・研究フィールドの提供：対人援助職の養成、または現任者研修において、メンタライゼーション尺度を用いた意識調査や効果測定にご協力いただける機関（大学、専門学校、自治体、病院等）。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【論文】

- ・「大学院心理専門職養成課程における心理臨床スーパーヴィジョンー共通目標としてのメンタライジング能力の向上という観点から」

【学会発表】

- ・「臨床心理士・公認心理師養成大学院における学内実習指導に関する検討（１）（２）」
- ・「心理専門職養成大学院教育におけるメンタライゼーション概念の有用性」